

大相撲丹波場所



「愛育館」を会場に行われた大相撲丹波場所。人気力士の取組を間近で見ようと市内外から約2,300人が訪れ、会場は満員御礼となった



①大きなお相撲さんに立ち向かう地元園児たち。会場は笑顔に包まれた②土俵上で声援を送る園児③取組を終えた力士が気軽にサインに応じてくれるのも地方巡業の醍醐味の一つ



「大相撲丹波場所」が10月20日（月）に、三ツ塚ふれあいセンター「愛育館」で行われました。横綱から幕下までの力士ら約240人が参加。横綱・白鵬や鶴竜、人気力士の遠藤などを一目見ようと、観客約2,300人が詰めかけました。取組では力士たちが激しくぶつかり合い、豪快な投げ技ややり技などを披露。白鵬と鶴竜の結びの一番は見応えある力相撲となり、場内は大歓声に包まれました。



エジプト出身 大砂嵐に吊り上げられる遠藤。その後、形勢逆転し遠藤が勝利した



勢の取組には女性ファンからの黄色い歓声が飛んだ



幕内の土俵入り



にらみ合う琴奨菊（写真左）と稀勢の里（写真右）。大関同志のプライドがぶつかり合う



結びの一番は白鵬と鶴竜の横綱対決。白鵬が鶴竜を土俵際に追い詰めるも、鶴竜が押し返し、そのまま寄り切って鶴竜の勝ち。白熱した横綱同士の対戦に、この日一番の歓声があがった



若手の行司も土俵で取組を裁いた



⑥土俵入りを控えた白鵬。立ち姿に横綱の風格が漂う⑦⑧見事な土俵入りを披露した白鵬と鶴竜



④安美錦が丹波市豪雨災害の被災地域である竹田小学校を訪問⑤相撲会場には復興を祈念する幕が掲げられた



取組後には、弓取式が行われ丹波場所を締めくくった

■取組以外の見どころ

【横綱綱締め】

横綱白鵬の土俵入りを前に、綱締めの実演が行われた



【相撲甚句】

化粧まわしを付けた力士6～7人が輪になり、一人ずつ唄う力士独特の唄。丹波竜を歌詞に盛り込むなど、丹波市にちなんだ唄も披露された

【初切】

相撲の禁じ手をおもしろおかしく紹介。初切は江戸時代から行われているという



【相撲講座】

土俵上の作法、股割りなどの実演、弓取式や土俵入りの意味などをわかりやすく説明

市制10周年を記念し、丹波市ではじめて開催された「大相撲丹波場所」。丹波市商工会（会長 大地 恒氏）をはじめとする市内16団体が実行委員会を組織し、運営を担いました。

大相撲丹波場所

開催の舞台裏

丹波市復興の一助に

「丹波場所の開催が決まった当初は、準備を進めるにも手探りの状態でした」と話すのは、大相撲丹波場所実行委員会の事務局長を務める本庄義文さん（62）。「丹波市初の開催であり、かつてない規模の催しに、チケット販売や力士・関係者の宿泊先の手配など、様々な事前準備、調整が求められました」と振り返ります。そして、準備も大詰めを迎えていた今年8月16日に、丹波市豪雨災害が発生。被災された方々



大相撲丹波場所実行委員会事務局長 本庄 義文氏（62）

への心情も考慮し、一時中止が検討されました。しかし、相撲協会からの「復興支援に協力したい」という力強い言葉を受け、また、実行委員会でも、大相撲で被災された人々を元気づけ、復興支援の力になりたいという強い思いから予定通り開催することが決定されました。

市民力を結集
大相撲が明日への活力に



開催前日の土俵づくりのようす。前日準備、当日の運営には数多くのボランティアが参加しました

会場の設営や当日のチケット販売、会場整理などには、実行委員会メンバーのほか、関係団体から

ボランティア延べ250人が参加。市民力の結集により、大きなトラブルもなく大盛況のうちに丹波場所は閉幕しました。当日は対応に追われ、会場のようすを見る余裕もなかったと話す本庄さん。「帰るみなさんの晴れやかな表情を見たとき、ほっとしたと同時に達成感が込み上げてきましたね」と笑顔で話します。

被災された方々をはじめ、観客、運営に関わった人々を笑顔にした大相撲丹波場所。今後、大相撲が私たちにくれた元気、エネルギーが、未来の丹波市の活力につながることを期待されます。

日本相撲協会から義援金が贈られました

日本相撲協会から、丹波市豪雨災害からの早期復興を願い、巡業部長の尾車親方から辻市長に義援金100万円が贈られました。この義援金は、被災された方々の生活支援に役立てられます



勢、安美錦が
被災地にエール

10月20日（月）、人気力士の勢と安美錦が丹波市豪雨災害で被害を受けた地域を元気づけようと、それぞれ前山小学校と竹田小学校を訪問しました。



前山小学校を訪問し、地域の人たちと記念撮影をする勢。児童には、夢をもつこと、何でも好き嫌いせず食べることの大切さを伝えました



安美錦は竹田小学校の児童と手押し相撲を楽しむなど交流を深めました



人々に幸せを招き入るとされる力士のしこ踏み

地方巡業の醍醐味は、なんといっても、朝稽古や相撲甚句を見られるなど、巡業ならではの雰囲気を感じてもらえることです。また、力士との距離も近く、ぶつかり合う音、息づかいも間近で聞くこともできます。

しこ踏みで丹波市のみなさんに
幸せを届けたい



— INTERVIEW —
巡業部 高崎親方に聞く
公益社団法人
日本相撲協会
巡業部 高崎龍水親方
（元金開山）

で力士がするしこ踏みには、大地を踏みしめて邪気を払い、「よいしょ！よいしょ！」と観客が声をかけることで、幸せを招き入るといわれています。大相撲丹波場所の開催をきっかけに、一日も早く復興が進み、市民のみなさんに幸せが訪れることを心からお祈りしています。

地元凱旋の千代栄が押し出しで勝利！



大地大相撲実行委員長から、地元凱旋した千代栄に花束が贈呈されました



春日町出身の幕下力士 千代栄が登場すると、会場には大きな歓声が響き渡りました。会場の応援を受けた千代栄は豪快な攻めを見せ、押し出しで勝利を飾りました

棚原相撲甚句

丹波場所でも披露された相撲甚句。春日町棚原でも毎年、地元代表のみなさんが化粧まわしを身に付け、唄を披露しています。

この地域での相撲甚句のはじまりは、大正時代に相撲巡業で棚原に来た力士たちから物々交換で化粧回しを6本譲りうけた時に、相撲甚句と一緒に教わったことがはじまりといわれ、地域自慢の伝統行事として今に受け継がれています。

大相撲丹波場所トピックス

未来に向かって、はっけよい！

丹波市出身の書道家が揮毫した特製座布団



前売り券購入者には大相撲の絵柄が入った座布団がプレゼントされました。「丹（まごころ）の里」の文字が印象的なこの座布団は、NHK大河ドラマ「新撰組！」の題字を揮毫したことで知られる荻野丹雪さん（春日町出身）が書いた丹波場所オリジナルです。



10月12日（日）に棚原で行われた相撲甚句。6人の地元力士が堂々とした姿で土俵を周りながら唄を披露しました